

重点取組分野	令和 7 年度		総括	重点取組分野	令和 8 年度		総括	重点取組分野	令和 9 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	カラー資料の提示や動画で配布など、ICTの効果的な活用を通して、学習意欲と理解の向上を図ります。低学年では、視写や作文、ノート指導と鉛筆を使って書くことを通じて、学習の基礎・基本の定着を図ります。算数少人数に加えてブロック内での教科交換指導も積極的に取り入れ、学習指導の効果を高めます。	チームで連携しながら授業改善を進めることができ、学び方の選択を取り入れたことで、学習に前向きに取り組む児童の姿が見られた。基礎基本の定着は概ね図られているが、今後は個々の理解度の把握をより丁寧に行い、学びの質を高めていきたい。	A	確かな学力	学年・ブロックで児童の実態を継続的に共有し、チームで授業改善を進めます。基礎基本の確実な定着を図るため、学び方の選択の幅を広げ、児童が主体的に学びを構築できる授業づくりを推進します。			確かな学力	c1		
豊かな心	たてわり活動を活用し、異学年どうしの関わりをさらに広げていきます。特に中学年の子どもたちがやりがいや責任を感じながら取り組めるように、子どもの思いや意見がさらに反映されるように、年間の見直しをもった活動を展開します。	体力テスト、全校遠足、運動会、なかよし清掃、なかよし給食、6年生を送る会と1年間を通じてたてわり班で活動し、仲を深めることができました。なかよし清掃では、ペア学年を4年と2年に変更して4年生が責任をもって活動できた。1、2、3年生で運動会を行い、3年生がリーダーとして輝くことができた。	A	豊かな心	行事をたてわり班で取り組むことにより、異学年交流を活かした関わりを広げていきます。ペア学年を組み合わせ活動を行い、中学年の責任感を養っていきます。発表や学習での異学年交流を行い、互いに認め合う場を増やしていきます。			豊かな心	c2		
健やかな体	養護教諭や栄養職員から健康的な生活習慣や食育の指導を行うことで、子どもたちが自らの体や健康的な食生活についての理解を深めていきます。学校保健委員会の取り組みを充実させ、子どもたちが主体的に体力向上を図っていきます。	保健指導や給食室の掲示板を活用して、健康や食事について知る機会を継続的に設けることができました。学校保健委員会の取り組みを1年間を通して行い、様々な企画に全校で活動することが出来た。今後も職員間で共有を図りながら取り組んでいきたい。	B	健やかな体	継続的に生活習慣や食育の指導を行うことで、子どもたちが自らの体や健康的な食生活についての理解を深めていきます。学校保健委員会を通して、子どもたちが主体的に健康について考え、行動できるようしていきます。			健やかな体	c3		
特色づくり	たてわり活動や異学年交流がさかんであるという特色を生かして、子どもたちの意見や思いを学習活動や児童会活動に反映して、より美しい学校を作っていきます。行事などを通して、地域とのつながりを大切にしていくとともに、学習における地域人材の活用を努めます。	委員会活動で、学校をよりよくする取り組みを6年生を中心に考え、なかよし清掃、なかよし給食、紅白歌合戦、生き物のふれあいワーク、姿勢をよくする集会、図書委員会による怪談話など多岐の活動に取り組めた。子どもたちのやりたい、やってみようという夢をかかなる事ができた。	A	特色づくり	子どもたちのやりたい、やってみようという言葉に耳を傾け、実現できるように教職員が支援していきます。子どもたちの夢がかなう楽しい学校を目指して、教職員と地域が連携して子どもたちの取り組みを支えていきます。			特色づくり	c4		
いじめへの対応	いじめ防止対策委員会の他に、児童に関する会議を全体で行い、情報共有を図っていきます。いじめ防止対策委員会を活用し、いじめ未然防止と解決の見直しについて、検討を充実させます。アンケートをはじめとした子どもの見取りについての分析を活用して、いじめの未然防止に努めます。	「いじめ」の定義を全校で再確認し、人権学習など折に触れて、「いじめをしない・させない自分であるために」に自分を取りたい行動を考え、実践する機会を設け、未然防止に努めた。また、いじめの早期発見のために、アンケートを活用したり、教職員間の情報共有を充実に行ったりしてきた。	B	いじめへの対応	いじめ防止対策委員会の他に、児童に関する会議を全体で行い、情報共有を図っていきます。いじめ防止対策委員会を活用し、いじめ未然防止と解決の見直しについて、検討を充実させます。アンケートをはじめとした子どもの見取りについての分析を活用して、いじめの未然防止に努めます。			いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	低・中・高ブロックで教材研究を行い、特に経験の浅い先生の授業力を高めています。ブロック内でそれぞれの先生の得意科目を担当することで、教職員の強みを生かしています。各人材育成ステージの職員が日常的に実践を見合うことで、職場全体で人材育成できる体制を充実させます。	低・中・高ブロックで特に重点研究にむけて教材研究を活かに行い、互いの力を高めることができた。チーム担任制を取り入れ、算数と国語を入れ替えて得意単元の授業を行ったり、音楽と体育を交換したりしてそれぞれの教職員の強みを生かして授業をすることができた。	A	人材育成・組織運営(働き方)	各人材育成ステージの職員が日常的に実践を見合うことで、職員全体で人材育成できる体制を充実させます。ブロック学年での教材研究や助言、指導などの活性化と、教科担当を交換するなど柔軟な指導体制を取り入れ、教職員の強みを生かした教育を推進します。			人材育成・組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育(国際教室)	ステップアップルームでの取り出し指導や特別支援教育支援員を割り当て、指導の個別最適化を図ります。ICTの機能を活用して、指導の成果と課題を整理し、学級経営のユニバーサルデザイン化を推進します。外国につながる保護者への情報提供や子どもへの支援体制を確立します。	国際教室では丁寧な指導や柔軟な支援、保護者面談の依頼により児童や保護者の安心につながっている点や成果である。一方、取り出し後の学習補償が難しく、入り込み支援の時間や人員も不足している。支援が必要な児童の増加に対して、情報共有の仕組みづくりや人員確保が課題である。	A	特別支援教育(国際教室)	児童の実態に合わせて、外国につながる保護者への情報提供や支援体制を充実させます。ステップアップルームでの個別指導を強化し、ユニバーサルデザインの学級づくりを推進します。支援が必要な児童の情報共有を整理し、子どもへの支援の質を向上させていきます。			特別支援教育(国際教室)	c7		
児童指導	チーム担任制を活用して、低中高ブロック内で日常的に情報共有し、組織的にかつ迅速に児童の支援と指導にあたるようにします。また、職員が児童全員の顔と名前を把握することで、職員と児童の関係性を深め、スムーズに情報共有できるようになります。	チーム担任制が活用され、きめ細やかな情報共有が日常的に行われている。また、小規模校の強みを生かされておき、教職員が児童を把握している。そのため、児童一人ひとりの変化にすぐ対応ができている。支援や指導が必要な場合には、チームで検討・対応する体制ができている。	B	児童指導	チーム担任制を活用して、低中高ブロック内で日常的に情報共有し、組織的にかつ迅速に児童の支援と指導にあたるようにします。また、職員が児童全員の顔と名前を把握することで、職員と児童の関係性を深め、スムーズに情報共有できるようになります。			児童指導	c8		
読書活動推進	学校司書と連携し、学級への定期的な本の貸し出しを行います。また、学習に必要な図書準備、学習の成果物の提示などを学校図書館で行い、学習における学校図書の活用を図り、学習を深められるようしていきます。また、高学年ではブックトークなども取り入れ、読書活動の充実を図っていきます。	学校司書と連携し、学級への定期的な貸し出しや図書環境の整備が進められている。学習に必要な図書の準備や展示等の工夫により、図書館を活用した学習の機会は確保されている。今後も、図書の活用について共有を図りながら取り組んでいきたい。	B	読書活動推進	学校司書と連携した学級貸出や環境整備を継続し、子どもが本に触れやすい環境づくりを進めます。学習に必要な図書の準備や展示を活用し、図書館を活用した学びを充実させます。図書館利用や読書活動の時期を学年間で見直し、情報を共有しながら、計画的な活用を図っていきます。			読書活動推進	c9		
									c10		
ブロック内評価後の気づき	成果としては、授業改善と学習意欲の向上については、ICT活用や学び方の選択肢を広げる工夫により、児童が主体的に学習へ向かう姿が増え、基礎・基本の定着も概ね達成された。また、異学年交流と組織的な支援体制が充実し、たてわり活動やチーム担任制が効果的に機能し、児童同士・教職員間の連携が深まり、迅速な支援体制が整えられた。課題としては、学習の基礎定着は進んだが、児童ごとの差異に応じたきめ細かな把握と支援の強化、取り出し後の学習補償や入り込み支援の体制、情報共有の仕組みづくりと人員確保が必要と考えられる。		ブロック内評価後の気づき				ブロック内評価後の気づき				
学校関係者評価	地域の目を意識した取り組みを通して、保護者と子どもの健全な学びを支えつつ、子どもの主体性を伸ばす大人の関わりを大切にしたい。また、相手の立場に立つて伝える力や感謝の気持ちを持って、良さを伸ばす教育を進めてほしい。一方で、人と人のつながりが希薄化する中、社会状況に適合した関係づくりが課題であり、いじめの早期発見につながる変化の把握や、命の大切さを伝える教育を充実させ、地域活動に子どもの力を生かしながら、心にならぬよう支援する体制づくりを今後進めていきたい。		学校関係者評価				学校関係者評価				
中期取組目標振り返り	本年度は、ICT活用や学び方の工夫、縦割り活動やチーム担任制などを通して、児童の主体性や学習意欲が高まり、地域・保護者とのつながりを意識した教育活動が広がった。相手の立場に立つて伝える力や感謝の心、命の大切さを育む取り組みも進み、児童の良さを伸ばす教育が実現した。一方で、個々の理解度把握や特別支援体制の充実、人とのつながりを充実させる必要性など課題も明らかになった。今後は心のゆとりを大切にしながら、子どもの変化を丁寧に見え、地域とともに支える学校づくりをさらに推進していく。		中期取組目標振り返り				中期取組目標振り返り				